

学校教育目標	中・長期的目標	総合評価
1 高い知性と豊かな心、健やかな体を育み、自ら考え探究する力を養う。 2 個性や能力を伸ばし、自主・自立の精神と敬愛・協同の精神を培う。 3 社会の一員としての自覚を高め、進んで社会に貢献する人物を育てる。 4 国際社会を深く理解し、平和を希求する人物を育てる。	(1) 生命・人権尊重の精神と敬愛・協同の精神を養い、安心・安全な学校づくりを行う。	生徒にとって安心・安全な学校づくりのため、全職員が継続して課題に対応していく。職員間の情報・課題の共有をより綿密に行っていく。
	(2) 生徒の主体性を育み、個性の伸長と智・徳・体の育成を図り、探究的な学びを通して学力の向上を図る。	SSH委員会を中心に課題研究を中核とした探究的な学びに取り組み、主体的に学ぶ力を育成した。さらに新学習指導要領に示された3つの力の育成を図るべく、取り組みを継続する。
	(3) 開かれた学校づくりと地域や外部機関との連携を推進し、生徒の社会参画の力と未来を創造する力を育てる。	2回の授業公開に加え、地域ボランティアや高校生チューターを実施した。昨年度までは新型コロナの影響で思うように実施できなかった部分もあったが、今年度はコロナ禍以前に戻って実施することができ、生徒も活動に積極的に参加した。
	今年度の重点目標(評価項目)	成果と課題
	① 互いの存在を認め合う人間関係を構築するため、様々な場を通じて人権意識の啓発と尊重に取り組む。	生活指導係を中心に、人権教育を通じて人権意識の涵養に努めた。SNSを通じたトラブルについては、その特性を理解・共有し、常に注意していく必要がある。
	② 学校全体で「探究的な学び」に取り組むとともに、将来展望をふまえた多様な学びや学校のあり方を検討する。	全学科で課題研究に取り組み、探究的に学ぶことができた。今後の生徒数の減少をみずえ、学科や教育課程のあり方を継続して検討していく。
③ 進路実現に向け、生徒自らが考える力の育成を図るための「主体的・対話的で深い学び」ができる授業を推進する。	各教科で「主体的・対話的で深い学び」ができる授業を開発・実施している。また、教科横断型授業にも取り組んだ。ICTを活用した授業についても継続して研究していく。	
④ 学校と家庭、地域との連携及び協力のもとに教育活動を進めるとともに、情報発信の充実を図る。	学年・学級・支部PTAを実施した。「飯高ジャーナル」の発行やホームページの定期的な更新など、迅速な情報発信に努めた。今後、ホームページのさらなる充実を図っていく。	

A(よくできた) B(だいたいできた) C(やや不十分) D(不十分)

重点目標	評価項目	主となる分掌	評価の観点	評価%				成果と課題	改善策
				A	B	C	D		
①	互いの存在を認め合う人間関係を構築するため、様々な場を通じて人権意識の啓発と尊重に取り組む。	1学年	・生徒ひとり一人が、高校生活に適応し、新たに出会った仲間と絆を深めていけるように支援することができたか。そのうえで、進路への意識を明確にし、日々の学習に対して前向きに取り組めるよう指導することができたか。	25	75	0	0	・生徒が高校生活に適応し、仲間と絆を深めていけるよう面談などを実施し、支援してきた。 ・進路やSSHの講演会を通して進路意識を醸成することができた。	・来年度は2年生として自覚を持ち、生徒が積極的に活動できるよう支援する。 ・来年度から導入予定のスタサブなどを活用して進路実現できるように学習をサポートする。
		2学年	・学校生活の諸場面において、他を理解し、尊重する態度を育むことができたか。特に文化祭や研修旅行などの行事を通しては、周囲と折り合いをつけながら一つのもの創り上げる達成感を味わうように支援することができたか。	20	80	0	0	研修旅行では、車椅子参加の仲間を思いやる行動が印象的であった。集合時間も厳守でき、気持ちの良い集団行動がとれた。	他者理解や他者尊重には基礎的な学力も欠かせない。家庭学習時間の確保に努めさせたい。
		3学年	・最上級生としての自覚を持ち、生徒会活動やクラブ活動などに主体的に関わるよう支援することができたか。また、進路指導を通して、生徒一人一人が自分の生き方を決定し、将来をデザインできるように支援することができたか。	12	71	17	0	・最後の文化祭、最後の大会に、最上級生として主体的に関わり燃え尽きることができた。個人差はあるものの、学習を中心とした生活への切り替えもできている。 ・自らの進路としっかり向き合い、自分ごととして受験に挑むための指導、支援を行った。	・「コロナ不安等出席停止」の制度はなくなったものの、安易に学校を欠席する生徒が散見される。心身の管理や社会常識について継続的な指導、支援が必要である。
		生徒会係	・生徒会活動・クラブ活動等の自主活動を充実させ、生徒一人ひとりが活躍できるよう支援することができたか。	33	63	4	0	・コロナによる制限をほぼ撤廃し、以前の活動を取り戻そうとした1年だったが、生徒は主体的に関わり、その中で成長も見られた。活動状況も概ね良好だったが、以前のノウハウも失われた中で予期せぬ問題も起きたため、次年度に生かしたい。	・今年度の活動の反省を生かし、各種イベントの内容や実施方法を安全かつさらに充実したものになるよう支援をしていきたい。
		生活指導係	・人権尊重と、いじめ・暴力のない安心安全な学校づくりができたか。 ・多様な生徒に対し、生徒相談の体制を充実させる事ができたか。	29	71	0	0	・アセス(学校環境適応感尺度)を実施し、係・担任等との連携会議で情報の共有を行った結果、新たな気づきも認識でき相談体制の充実を図ることができた。 ・暴力事象は発生していないが、SNS上での思慮に欠けた送信事象が発生した。	・引き続き、生徒相談係と協力して綿密に情報を共有することにより相談体制を充実させ、SNS上での意識も含め、他人を思いやる人権意識を高めていきたい。
		保健環境係	・生徒の心身の健康を支援する活動や全体での取組みができたか。	36	56	8	0	・5月新型コロナウイルス感染症の5類移行されたが、感染症対策は継続した。文化祭、クラスマッチ、研修旅行の行事も感染拡大することなく実施できた。 ・生徒支援では担任や特別支援コーディネーターと協力し、情報収集、家庭との連携を深めることができた。	・引き続き、感染症対策を実施していく。生徒支援では担任、特別支援コーディネーター等と連携を図り、チーム支援に努める。

		環境整備係	・校舎を長く気持ちよく使えるように美化に努め、望ましい教育環境の整備ができたか。	29	67	4	0	・通常清掃はよく取り組んでいるが、さらに徹底したい。 ・美化委員会と協力してコロナ禍の中でできなかったワックスがけをすることができた。 ・清掃用具庫の中を整理整頓しなければいけないと感じた。	・美化委員と協力して見回りなど通常清掃をさらに充実させる。 ・清掃用具庫を整理し、必要な掃除用具を充実させる。
②	学校全体で「探究的な学び」に取り組むとともに、将来展望をふまえた多様な学びや学校のあり方を検討する。	各教科	・各教科の特性を踏まえ、ICTの有効的な活用を含めた生徒の能力や個性および各学科の実態に即した指導を研究することができたか。	12	88	0	0	新教育課程において、教科書や指導内容が変化中、教科の特性を踏まえた指導のあり方を研究することができた。	教科はもちろん、他校の情報などを収集し、よりよい授業づくりを検討すること。
		普通科	・多様な生徒の能力、個性、進路希望に応じた学習環境を整備し、進路指導することができたか。	21	71	8	0	多様性のあるカリキュラムを用意し、実践できているが、生徒減、教員数減を見据えて整理、再考していく必要がある。進路指導の面談を更に充実させる必要がある。	より効果的に学べるよう、選択科目の見直しなどをしていきたい。
		探究科	・探究活動や課題研究の中で、各教科で学んだ知識・技能を応用することで学習の深化・高度化を図れたか。 ・国際的・地球規模の視野を持ち、課題発見力、解決力及び情報発信力を育成できたか。 ・高い目的意識と進路実現に向かう姿勢をつくることができたか。	29	67	4	0	多くの大学や研究機関、企業等と連携して授業を行った。 県学生科学賞では今年度も2位を獲得し、自然科学部では地学部で全国総文祭推薦、北信越大会出場を果たした。コンテスト以外でも、外部発表の機会が多く、課題研究の活動が活発であった。課題研究の質向上と、探究学習のスキル向上に向け、学校全体の教員の資質能力向上が課題である。	探究学習に関する教員研修の機会を設定する。 海外との交流を増加させるとともに海外研修を計画する。
		スポーツ科学科	・学科の特徴を踏まえ、生徒の能力・個性に応じた指導で学力を伸ばすことができたか。 ・専攻種目の指導を通して、競技力の向上を図ることができたか。 ・課題研究に積極的に取り組むことで、課題発見能力、課題解決力とプレゼン能力を伸ばすことができたか。	33	67	0	0	「成果」・学習習慣のない生徒は粘り強い指導で学習習慣の土台を築いた。幅広い学力の生徒に各教科の先生方には熱心に指導、理解いただき感謝している。陸上部のインターハイ出場、スキー部の日本代表として世界大会へ出場するなど成果を上げた。・3年間の課題研究を通じて、探究力とプレゼン能力を伸ばすことができた。	改善点 学習習慣の確立をベースに、学習の必要性を理解し意欲の向上を図る。・絶対的な成果はもとより、相対的な進歩度を図り取り組む意欲につなげたい。 ・授業外の時間を使うことが多く改善の必要がある。
		学校運営会議	・SSH第三期の指定や昨年度より実施されている新学習指導要領をふまえて、「3つの方針」[「グランドデザイン」]のブラッシュアップを含めた将来展望について議論を深めることができたか。	21	75	4	0	将来展望や今後の学校のあり方についての議論を行った。	委員会を複数回開催し、さらに検討を進める。
		カリキュラムマネジメント委員会	・学習指導要領改訂に伴う新教育課程について、各部署から意見を集約し、よりよいあり方を検討できたか。 ・新たな評価のあり方の研究を進めることができたか。 ・シラバスの集約・提示を行うことができたか。	24	68	4	4	〈成果〉新課程について研究を重ね、より適切なカリキュラムを編成することができた。 〈課題〉職員全体での教育課程の課題や問題点の共有がうまくいかず、議論が進まない期間があった。	研究を継続する中で、職員全体での研修を行い、教育課程への理解を深める。
③	進路実現に向け、生徒自らが考える力の育成を図るための「主体的・対話的で深い学び」ができる授業を推進する。	各教科	・授業内容、授業方法について各教科で研究し、課題を発見する力など、社会が求める「新しい学力」の向上を目指すことができたか。	24	72	4	0	・全学年に1人1台端末が整備され、多くの教科でICTを活用した深い学びの研究が進んだ。	・ICTの活用について意見交換できる場を設定するなどし、さらなる推進をしていきたい。
		進路指導係	・「主体的・対話的で深い学び」の取り組みを通じ、進路意識の向上と生徒一人ひとりの進路実現を図ることができたか。 ・模擬試験の分析結果等を学年・教科・生徒と共有し、生徒自身の主体的で深い学びへとつなげることができたか。 ・学びの基礎診断等の結果を分析し、授業に取り組む姿勢や家庭学習の問題点を明らかにし改善することができたか。	21	75	4	0	【就職指導】公務員は早期からの取組により4名合格。不合格者は専門学校へ進学予定。民間企業は売り手市場であり、就職希望者は第一希望の事業所に内定。 【進学指導】学びの基礎診断等で家庭学習状況の改善が課題であることを各学年の共通認識として共有できた。進路意識を持たせるために、志望理由書の書き方講座・小論文講座等を早期に実施することができた。年内合格を目指す生徒が増えていることを踏まえ、探究活動をどのように進学に結び付けていくかさらなる研究が必要である。	・就職希望者は2年次からの取組が必要である。 ・受験科目の把握と教科担任の連携(特に文転者)。特備授業の在り方。 ・欠席、時間厳守、挨拶、身だしなみ、清掃等日常生活指導を、進路の観点からも全職員で取り組むべき。 ・探究活動と進路指導の連携をとりながら進学指導を進めていく意識を全職員で共有する。
		飯山カリキュラム委員会	・地元の小中学校と連携をとり、数学・英語を中心に各教科の学力向上のための取り組みができたか。	21	79	0	0	〈成果〉 ・近隣中学校との授業交流や情報交換を主に行った ・秋の連携授業を通じて小中高の算数、数学の連携について交流を取り組んだ ・飯高チューターを二度実施。高校生が中学生に学習、学習方法を教えることで交流を図った 〈課題〉 ・中高との授業交流への取り組みについて形骸化しており目標が不明瞭 ・授業担当者同士の連携不足	・年度当初に本事業の目標を再確認 ・授業担当者間で目標達成に向けての取り組み方を確認 ・飯高チューターを夏秋共に本校で実施。学生同士の交流を通じて受検生に本校の様子を知る機会を設ける
		SSH委員会	・各教科の「主体的・対話的で深い学び」ができる授業を開発実施することで生徒の興味と疑問を喚起し課題研究に繋げることができたか。 ・「課題研究」を中心に据えた教育プログラムにより課題発見力・設定力・解決力及び情報発信力を育成することができたか。 ・ルーブリックやポートフォリオを活用することで、生徒の成長や教員の授業改善に繋げることができたか。 ・科学系コンテストや対外的な活動に参加するなど、積極的に情報発信できる生徒が増加したか。 ・第三期の中間評価において、上記の成果について一定の評価を得ることができたか。	37	63	0	0	〈成果〉 毎回職員会議でSSH通信を発行し、情報共有を強化した。授業改善の活性化と全職員での指導体制を確立した。積極的なアウトプット活動を実践したことで、生徒の情報発信力が向上し、外部発表も積極的に行った。課題研究大会同研修会で全国総文祭および北信越大会への出場権を獲得するなど、質の高い課題研究が行われた。 〈課題〉 他校との協働とSSH成果の波及/国際性の涵養/全職員への情報共有とコンセンサスの継続	・指導書と運営マニュアルの改善と共有を継続する。 ・HPを更新する。 ・R6年度、韓国への海外研修を計画する。 ・学校や地域に対して分かりやすく、興味もてるような情報発信を行う。 ・県内外の高校と連携する。
		ICT情報処理係	・各教員に指導用タブレットを配布したうえで、ICTを効果的に活用できる条件を整備することができたか。	33	58	8	0	〈成果〉 教科指導用タブレットを全職員に1台ずつ配布し、不都合がある場合はその都度対応した。また、ワイヤレスプロジェクトに投影できるように整備した。 〈課題〉 各教室に整備してあるインタラクティブペンやHDMIケーブルは消耗品なので、破損が生じた場合に予備を準備しておく必要がある。	・各教室にあるICT備品について、担任の先生方の協力を得ながら、学期あるいは定期考査ごとに備品の状態を確認してもらい、破損したときに即対応できるように準備しておく。 ・プロジェクトのフィルタ清掃を定期的に行い管理する。

④	学校と家庭、地域との連携及び協力のもとに教育活動を進めるとともに、情報発信の充実を図る。	教務係	<ul style="list-style-type: none"> ・学校HPや飯高ジャーナル等を通して情報を速やかに発信することができたか。 ・公開授業や体験入学に多くの参加者を得ることができたか。 ・ICTを活用し、生徒・保護者との連携を図ることができたか。 	25	75	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・HPでは各種案内や生徒の様子など、迅速な情報発信を行うことができた。 ・ジャーナルについても複数人による発行体制が確立し、定期的な発行ができた。 ・2回の公開授業を実施した(5月27日135名参加、10月20日75名参加)。体験入学では231名の参加を得た(昨年度268名)。 ・欠席連絡について、昨年度から引き続きオンラインで実施し、状況を職員で共有できた。きずなネットによる一斉連絡も随時行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・HPについて、情報やレイアウトの整理を進める。 ・公開授業を計画するに当たっては、近隣中学校の行事予定、代休日等を参考にする。
		PTA厚生係	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA総会、支部PTA総会への参加率向上が図れたか。 ・PTA行事の企画運営を保護者とともに行っていったか。 ・PTA会報の発行等とおして情報発信が図れたか。 ・活動内容・時期の見直し・精選等が行えたか。 	22	74	4	0	<ul style="list-style-type: none"> ・総会の出席は540名中511名(出席129名、委任状382名)でした(昨年度は571名中476名(出席103名、委任状373名、一昨年度は585名中513名(出席127名、委任状386名))。生徒減の中で、参加率向上ができました。支部PTA総会は9支部全てで開催して頂きました(昨年度は5支部が紙面開催、一昨年度は全て中止)。参加者数は会員521名中187名でしたが、参加率は支部により大きな開きがありました。 ・2020年度より続く新型コロナウイルスが沈静化し、全ての事業計画が実施されました。事業継承が中断により失われる事態は避けられたといえます。行事の企画運営については、正副会長をはじめとして保護者と連絡を密に取れたと思います。 ・PTA行事が少なかった昨年度とは異なり、例年通りの分量の紙面で会報を組む事ができました。 ・昨年度は活動内容の見直し・精選が行われ、文化祭におけるバザー等PTAによる協力は廃止となりました。強歩大会時における有志ボランティアは、関門等での給水補助、ゴールでの飲料・軽食配布という方式に定着しました。支部PTA総会実施の是非については、正副会長段階での検討が始まっています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度以降、現在の実施形態を継続していくのかは、学校職員とも連携しながら、意思決定会議である幹事会・評議員会・総会で議論していきたいと思えます。
		生徒会係	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自主的に地域の行事へ参加し地域の方と協力できるよう生徒会活動・クラブ活動等を支援することができたか。 	26	70	4	0	<ul style="list-style-type: none"> ・例年どおり灯籠まつり、赤い羽根共同募金、えびす講、雪まつりなどに協力することができ、積極的な関わりを支援できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前年踏襲や依頼されたものに取り組むだけでなく、社会に目を開き必要な活動を積極的に取り入れていけるような支援も必要だ。
		同窓会係	<ul style="list-style-type: none"> ・桂雪会WEBサイトや桂雪会報によって多くの情報を発信ができたか。 ・創立120周年記念事業実行委員会による記念事業が、滞りなく行われたか。 ・同窓生による“ホームカミングデー”の企画検討(次年度以降に実施)が進んだか。 	30	65	4	0	<ul style="list-style-type: none"> ・WEBサイト、創立120周年事業については、当初の予定通り、実施できた。 ・ホームカミングデーの企画は次年度に持ち越し 	<ul style="list-style-type: none"> ・人間関係が総じて希薄化する時代を迎え、同窓意識と母校への支援をどう維持していくか、ホームカミングデーも含め、考えていきたい。